

ココ・シャネルの香水におけるコアジサイの香り使用に関する考察

ココ・シャネルとその象徴的な香水、特に「シャネル N°5」は、ファッションとフレグランスの世界に計り知れない影響を与えてきました。その創造の背景には常に深い魅力と謎が伴い、多くの人々がその秘密のベールを剥がそうと試みてきました。ユーザーからの「ココ・シャネルが、香水の香りで、コアジサイの香りを使っていたというのは本当ですか」という問いは、こうした伝説的な創造物の背後にある具体的な芸術性への根強い関心を示しています。

本報告書は、この特定の問いに対し、シャネル N°5の歴史的背景、その公にされている香りの構成、そして香料としてのコアジサイ (*Hydrangea paniculata*) の特性を詳細に調査することで、明確な回答を提供することを目的としています。この探求は、香水史と香料の複雑な世界に対する深い理解を必要とします。

高級ブランドを取り巻く神話と一般の好奇心は、常にその魅力の源泉となってきました。ユーザーが「コアジサイ」という比較的珍しい花を、世界的に有名な香水であるシャネル N°5と関連付けて質問することは、単なる成分リストへの関心を超え、ブランドの物語やその起源に対するより深い繋がりを求める心理が背景にあると考えられます。このような具体的な、主流ではない花の香りが問われること自体が、高級香水の隠された要素やユニークな天然成分に関する逸話が広く流通している可能性を示唆しています。このことは、高級ブランドに関する報告書が、単に事実を提供するだけでなく、ブランドを取り巻く根底にある好奇心やロマンチックな物語にも応えることの重要性を示しています。正確な情報を提供しつつ、ブランドの神秘性を損なわない形で伝えることが、その魅力をさらに高めることに繋がります。

II. アイコンの誕生：ココ・シャネルのビジョンとエルネスト・ボーの傑作

ココ・シャネルは、ファッション界に革命をもたらした人物であり、その現代的なアプローチを香水にも広げようと強く望んでいました。彼女は、当時の主流であった、単一の花の香りやシンプルな天然由来の香水 (1) を、時に「娼婦の香り」と表現し、時代

遅れで退屈なものと捉えていました⁽²⁾。シャネルが目指したのは、従来の概念を打ち破り、「新しい時代の女性」を表現する、複雑で抽象的な香りでした。この香水は、現代的で、解放的で、洗練された女性像を体現するものでなければなりません⁽¹⁾。

彼女の香水創造への動機は、個人的な悲しみとも深く結びついていました。最愛の恋人であるアーサー・“ボーイ”・カペルを失った後、彼女は「人は去ってしまうけれど、香りなら残せる」ということに気づいたとされています⁽³⁾。香りは、彼女が深い悲しみから立ち直るための重要な要素であり、記憶を永続させる手段でもあったのです。シャネルの有名な言葉「香水をつけない女性に未来はない」は、香水が女性の自己表現と自信の不可欠な要素であるという彼女の信念を強調しています⁽⁴⁾。

シャネルの「現代的な」香水を求める明確な欲求は、彼女の深い個人的な悲しみと複雑に絡み合っていました。N°5の革命的で抽象的な性質は、単なる商業的野心から生まれたものではありませんでした。それは、彼女の喪失体験に対する心理的な反応であり、記憶そのもののように永続的で時代を超越したものを創造しようとする試みでした。彼女が香水を通して表現しようとした「新しい女性」は、単に身体的に解放されただけでなく、感情的に強く、複雑な内面を持つ存在でした。このことは、高級品の象徴的な製品の創造が、市場の要求、先見の明のあるリーダーの個人的な哲学、そして深い感情的な経験の複雑な相互作用から生まれることが多いことを示しています。この人間的な深みと真正さが、ブランドの物語に加わり、純粋な商業的努力よりもはるかに共感を呼び、永続的なものとなります。

シャネル N°5の香りを生み出したのは、ロシア系フランス人の科学者であり調香師のエルネスト・ボーです⁽²⁾。彼のユニークな経歴、特に第一次世界大戦中に北極圏のムジグ島に配属されていた経験は、N°5のインスピレーションの源となりました⁽²⁾。白夜の中、湖や川が放つ「みずみずしい香り」や「極地の新鮮で無垢なイメージ」が彼の記憶に深く刻まれ、帰還後にそれを香水で再現しようと試みました⁽²⁾。ボーは1920年初頭、フランスのリヴィエラでシャネルに紹介されました⁽⁵⁾。

ボーはシャネルにいくつかの試作品を提示し、彼女は有名なことに5番目のボトルを選び、それがN°5という名前の由来となりました⁽⁶⁾。シャネルの役割は、製造過程ではなく、最終的な選択の場面において決定的でした⁽⁷⁾。ボーはシャネルから「他の調香師が嫉妬するような香水」を作るよう依頼され、彼は「処方の秘密は守られるが、ある程度の模倣品が作られない保証はない」と答えました。そこでボーが提案した唯一の解決策は、「あまりにも高価で模倣できない処方を創ること」でした。これに対し、シャネルは「手に入る最も素晴らしい素材を使って構わない」と即座に承諾したとされています⁽²⁾。

エルネスト・ボーが「模倣できないほど高価な処方」を提案し、ココ・シャネルがそれ

を即座に熱心に受け入れたことは、単なる芸術的追求を超えた、抜け目のないビジネス戦略を示しています。香水の処方と比較的容易に模倣されうる時代において、このアプローチは独占性を確保し、ブランドのユニークな提供物を保護しました。最高級の素材を惜しみなく使用することで、彼らは優れた製品を実現しただけでなく、競合他社に対する参入障壁を築き、N°5の永続的な遺産とラグジュアリーな位置付けに大きく貢献しました。このデザインと素材選択における先見の明が、シャネル N°5が香水界におけるラグジュアリーとオリジナリティの基準として長く君臨する地位を確立する上で、極めて重要な役割を果たしました。

III. 香りの署名：シャネル N°5の構成を読み解く

シャネル N°5の最も特徴的な点は、当時の香水では考えられないほど大量に配合されたアルデヒドの使用でした⁽²⁾。これらの合成化合物は、その時代において画期的なものであり、N°5を従来のフローラル香水から際立たせる「きらめくような」「清潔感のある」「フレッシュな」「抽象的な」品質をもたらしました⁽²⁾。アルデヒドは香りの拡散力を格段に高め、冷えたシャンパンの泡が弾けるような感覚や、新鮮な冷たい空気を吸い込んだ時の気分を想起させると言われています⁽²⁾。また、「清潔感」のある印象を与え⁽²⁾、他の香りを甘くしたり、シャープに引き立てたりする役割も担います⁽¹⁰⁾。N°5に主に使用されるAldC-12は、単独で嗅ぐと「日光を浴びた洗いたての洗濯物のような香り」がすると表現されています⁽²⁾。ボーの助手が誤って指示の10倍の濃度のアルデヒドを入れてしまったという有名な伝説は、アルデヒドがN°5のユニークな特性にどれほど決定的な役割を果たしたかをさらに強調しています⁽²⁾。

N°5の革命性は、単にアルデヒドのような合成素材を取り入れたことだけではありませんでした。それは、これらの合成素材を高品質な天然エッセンスと巧みに融合させ、「抽象的な」フローラルな香りを作り出した点にありました⁽⁶⁾。当時の主流であった、単一の識別可能な花を模倣しようとする香水とは異なり、N°5は特定のどの花とも異なる、複雑で多面的な「ブーケ」を生み出しました。それは、定義しがたい洗練された「女性の香り」と表現されました⁽¹³⁾。この抽象性は、アルデヒドによって大きく増幅され、香水を文字通りの植物の再現から、より芸術的で概念的な印象へと進化させた真の革新でした。このパラダイムシフトは、香水に新たな美学を確立し、より複雑で多面的、そして持続性のあるフレグランスの創造を可能にしました。それは、香水がどのように構想され、認識されるかを根本的に変え、現代の香水が天然と合成の両方の原材料を芸術的表現の道具として受け入れる道を開きました。

N°5は抽象的でありながらも、本質的には豊かなフローラルブーケです。中心となるフ

ローラルノートは、高濃度のジャスミンとローズです⁽⁵⁾。特にジャスミンは、「催淫作用」があることで知られています⁽¹⁷⁾。その他、イランイラン、ネロリ、イリス（ニオイイリスの根由来）、トンカ豆、ベチバー、シダー、サンダルウッド、バニラなどが重要なフローラルおよびサポートノートとして含まれています⁽⁵⁾。

N°5のオリジナル処方は、その本質を保ちつつ、現代の嗜好に合わせて時代とともに再解釈されてきました。例えば、2016年にジャック・ポルジュ（3代目専属調香師）の息子であるオリヴィエ・ポルジュ（4代目専属調香師）によって生み出されたN°5 ローは⁽¹³⁾、よりフレッシュで現代的な解釈を提供しています⁽⁹⁾。これは、複雑さを抑え、トップノートにレモン、マンダリン、オレンジといったシトラスノートを強調し、ローズ、ジャスミン、イランイランの軽やかなフローラルハートを特徴とし、柔らかなホワイトムスクノートで締めくくられています⁽⁹⁾。この進化は、N°5の核となる処方の適応性を示しています。

アルデヒドは、単に香りのプロファイルに貢献するだけでなく、着用者や感知者の嗅覚体験を積極的に操作し、「清潔感」⁽²⁾、「きらめくような」活力⁽²⁾といった感覚を生み出し、他のノートを引き立てます⁽¹⁰⁾。アルデヒドが現在、シャンプーから家庭用洗剤まで幅広い消費財に「一般的」に含まれているという事実は⁽²⁾、一般の人々の「清潔さ」や「フレッシュさ」に対する嗅覚的認識に、その化合物がいかに深く永続的な影響を与えてきたかを示しています。シャネル N°5は、この嗅覚的関連性を確立する上で先駆的な役割を果たしました。シャネル N°5の画期的なアルデヒドの使用は、新しい香りをもたらしただけでなく、パーソナルフレグランスにおける新鮮さと清潔さを体験する新しい方法を導入しました。この革新は、香水業界全体、さらには日用品にまで波及し、何十年にもわたって嗅覚の好みと関連性を形成してきました。

香水の種類	トップノート	ミドルノート	ベースノート	主な特徴・印象
シャネル N°5 (オリジナル)	アルデヒド、ネロリ、イランイラン	ジャスミン、ローズ、イリス	ベチバー、サンダルウッド、ムスク、バニラ、トンカ豆	抽象的なフローラル、パウダリー、きらめく、温かみのある、エレガント、「女性の香り」
シャネル N°5 ロー	レモン、マンダリン、オレンジ、アルデヒド	ローズ、ジャスミン、イランイラン	ホワイトムスク、ベチバー、シダー	フレッシュ、軽やか、モダン、清潔感、複雑さ控えめ、透明感

IV. コアジサイの香料としての特性：その香りの輪郭

一般的なアジサイの花にはほとんど香りはありませんが、コアジサイ (*Hydrangea paniculata*) は、その独特の甘い香りで知られています⁽¹⁹⁾。その香りは、「香水を振りまいたような甘い匂い」が「あたりに漂う」と表現され⁽¹⁹⁾、繁殖のために虫を引き寄せるために進化した「甘い香り」であるとされています⁽²⁰⁾。現代の香水における「アジサイ」の香りは、しばしばヒヤシンス、スマレ、ジャスミン、イリスのニュアンスを含む「グリーン」または「アクアティック」な香りとして表現されます⁽²¹⁾。「刈りたての草とグリーンヒヤシンス、エキゾチックなベルガモットとチャイナリーのノート」といった記述も見られます⁽²³⁾。

繊細な花から天然の香りを抽出することは、商業的な香水製造においては複雑であり、得られる精油の量は非常に少ないのが実情です。水蒸気蒸留⁽²⁴⁾や溶剤抽出といった方法が存在しますが、多くの繊細な花の香りは、正確に、または商業規模で十分な量を捕らえることが困難です⁽²⁶⁾。デリケートな香りの分子を熱による損傷から守るために、「手揉み」や低温抽出といった方法が示唆されています⁽²⁶⁾。また、一部のアジサイに含まれるシアン配糖体のような化合物⁽³¹⁾は、香料としての安全な使用や特定の加工を必要とする可能性もあります。クロモジ⁽²⁸⁾や芳樟⁽²⁷⁾のような植物から精油を抽出するプロセスは、少量のオイルを得るためにも大量の原材料が必要であることを示しており、コアジサイについても同様の課題が示唆されます。

コアジサイは確かに甘い香りを持っていますが⁽¹⁹⁾、現代の香水に関する記述⁽²¹⁾では、「アジサイのノート」や「アジサイのアコード」という表現が頻繁に用いられています。繊細な花から高品質な精油を十分な量で抽出することの困難さ⁽²⁵⁾を考慮すると、これらの「アジサイの香り」は、コアジサイそのものからの直接的かつ大規模な抽出に頼るのではなく、様々な天然および合成の香料を巧みにブレンドして望ましい香りのプロファイルを「再現」したものである可能性が非常に高いです。これは、香りの一貫性、コスト効率、そして天然の香りを強化または変更する能力を可能にします。このことは、現代の香水製造における一般的かつ重要な実践、すなわち、複雑な、または抽出が困難な天然の香りを表現するための「アコード」の創造を浮き彫りにします。アジサイの「概念」や「印象」が使用されており、必ずしもコアジサイの原材料が商業的に大量に使用されているわけではないという区別は、香水の構成を理解する上で極めて重要です。

抽出の課題があるにもかかわらず、現代の香水では「アジサイ」のノートが実際に使用されており、しばしば「ウォーターリーフローラル」「雨の香り」「清潔感」といったコンセプトの一部として表現されます⁽²¹⁾。これらは、花そのものからの直接的な大規模抽出に頼るのではなく、天然および合成の香料を洗練された組み合わせで用いて、望

ましい香りのプロファイル（「アコード」として知られる）を「再現」することで達成されることが多いです。「ハイドレンジアガーデンフレグランスオイル」⁽³²⁾や「フレッシュハイドレンジアデコラティブフレグランス」⁽²³⁾といった製品、また日本のブランドが「梅雨」や「アジサイ」をテーマにした香水⁽³³⁾を開発している例があり、これらはしばしば「雨上がりの澄んだ空気」⁽²¹⁾や「雨と土の匂い」⁽³³⁾を想起させることを目指しています。

スニペット³⁶には、「香気漂う、世界的に有名なあの香水の原料となったのがコアジサイ（小紫陽花 ユキノシタ科アジサイ属）だそうだ」という記述があります。この主張は、特定の香水名を明記しておらず、また「そうだ」（it is said）という伝聞の形で提示されており、曖昧さが残ります。この曖昧さは、シャネル N°5に関する他の詳細なスニペット群において、コアジサイとN°5を直接結びつける具体的な裏付け情報が見当たらないことと相まって、ブランドの歴史における誤情報や都市伝説の典型的な源泉となり得ます。これは、コアジサイの心地よい香りと香水としての可能性に対する一般的な認識を示唆していますが、シャネルに関する具体的な歴史的事実ではありません。このスニペットは、一見するとユーザーの問いを裏付けるように見えますが、実際には慎重な検証が必要な重要なポイントとなります。シャネル N°5の具体的な成分リストや歴史的記述と厳密に照合する必要があり、一般的な、未確認の主張がどのように特定の誤った仮定につながるかを示すものであり、専門家による報告における正確な事実確認の重要性を強調しています。

V. 神話の払拭：シャネルの香水にコアジサイは使われていたのか？

シャネル N°5の構成に関する広範な情報を包括的に調査した結果、提供されたどの資料においても、コアジサイ（*Hydrangea paniculata*）がその成分として言及されている箇所は見当たりません⁽²⁾。信頼できる全ての情報源で一貫して挙げられている主要な構成要素は、アルデヒド、ジャスミン、ローズであり、これにネロリ、イランイラン、イリス、ベチバー、サンダルウッド、ムスク、バニラといった補助的なノートが加わっています。これらがN°5の象徴的な香りを定義する根幹をなす要素です。

シャネル N°5の創造に関する詳細で一貫した記述は、エルネスト・ボーの具体的なインスピレーション（北極圏の新鮮さ、²⁾と、その正確で革命的な成分（アルデヒド、ジャスミン、ローズ、⁵など）が複数の信頼できる情報源によって裏付けられています。これに対し、コアジサイに関する主張は単独で、曖昧な表現（「世界的に有名なあの香水」、³⁶⁾）であり、伝聞の形で提示されています。この顕著な違いは、製品の構成に関する正確な歴史的問いに答える際に、一般的または逸話的な主張よりも、具体的で

検証可能かつ裏付けのある歴史的文書に依拠することの極めて重要な意味を示しています。歴史的報告においては、具体的な、検証可能な証拠が立証責任を負います。有名な香水の詳細な構成記述の全てにおいて特定の成分が consistently 欠如していることは、特にその香水のユニークな特性が他の、十分に文書化された革命的な要素に起因する場合、それが成分ではなかったことを強く示唆します。この方法論は、正確性を確保し、歴史分析の完全性を維持します。

N°5のユニークな「新鮮で純粋な」⁽⁵⁾、「きらめくような」⁽²⁾、「冷たい空気のような」⁽²⁾品質は、エルネスト・ボーの北極圏での経験⁽²⁾と、彼の先駆的かつ前例のないアルデヒドの使用⁽²⁾に明確に起因するとされています。N°5の誕生に関するこの十分に文書化された物語は、コアジサイのような一般的な花がその創造の主要な、あるいは二次的なインスピレーションであったという考えと強く矛盾します。

ココ・シャネル自身も、「抽象的な」フレグランス、すなわち「女性の香り」⁽¹³⁾を求めており、特定の単一の花を文字通りに、あるいは容易に識別できる形で表現することはありませんでした⁽⁶⁾。N°5は確かにフローラルブーケですが、そのデザインは意図的に特定のどの花とも異なる香りを追求しており、それがN°5の「神秘性」に貢献しています⁽⁶⁾。香水に対するこの根本的な哲学的アプローチは、明確で識別可能なコアジサイのノートが主要な構成要素である可能性をさらに低くします。

コアジサイは甘い香りで知られ⁽¹⁹⁾、実際に一部の現代の香水やフレグランス製品で使用されている一方で⁽²¹⁾、スニペット³⁶にある「世界的に有名なあの香水の原料となった」という一般的な主張は、シャネル N°5に特化したものではなく、伝聞の形で提示されています。シャネルに特化した多数のスニペットの中に、この主張をシャネルの歴史的な香水処方と関連付ける裏付けとなる証拠はありません。

コアジサイが「世界的に有名な香水」に使われているという噂や信念が存在すること自体が⁽³⁶⁾、コアジサイがシャネル N°5には当てはまらないとしても、香水としての潜在力や魅力的な香りのプロファイルを持っていることを示唆しています⁽¹⁹⁾。これは、香水業界が常に新しいユニークな天然の香りを探索し、取り入れていることを示唆しています。このことは、香水製造のダイナミックな性質を浮き彫りにします。それは、新しい原材料や革新的な抽出技術を継続的に探求し、組み込むことで、嗅覚の可能性を広げています。コアジサイのような花は、歴史的には抽出が困難であったり、初期の象徴的な創造物と美的感覚が合わなかったりしたかもしれませんが、現代のフレグランス組成物においてその地位を見出しつつあり、これは進化するパレットと消費者の好みを反映しています。

VI. 結論：シャネルの革新がもたらす不朽の遺産

結論として、歴史的記述、公式声明、および詳細な成分分析を徹底的に調査した結果、ココ・シャネルがその香水、特に象徴的なシャネル N°5 にコアジサイ (Hydrangea paniculata) の香りを使用したことを示唆する証拠は一切見当たりません。N°5 の革新的で永続的な香りの核心は、合成アルデヒドの画期的な使用と、ジャスミンとローズを主とする豊かで抽象的なフローラルブーケにあります。このユニークなブレンドは、調香師エルネスト・ボーの北極圏での独特な経験に触発されたものであり、コアジサイの香りによるものではありません。

ココ・シャネルの真の才能は、彼女の時代における従来の、文字通りの花の構成から大胆に脱却した、現代的で抽象的なフレグランスを追求する先見の明にありました。エルネスト・ボーとの共同作業による彼女の天才性は、自然の単なる模倣ではなく、新しい、解放された女性らしさの芸術的で複雑な表現としての香りをもたらしました。

コアジサイに関する主張を、N°5 の実際の構成とインスピレーションに関する詳細で裏付けのある証拠を用いて明確に否定することで、本報告書はシャネルの革新（アルデヒドの先駆的な使用、抽象的なフローラルの創造、北極圏の風景からのインスピレーション）の真の物語を強化します。これは、ブランドの真正な歴史と知的財産を強化し、そのユニークな遺産を希薄化する可能性のある根拠のない神話の拡散を防ぎます。高級ブランドにとって、象徴的な製品に関する明確で歴史的に正確な、証拠に基づいた物語を維持し、伝達することは極めて重要です。神話を事実情報で払拭することは、信頼性を高めるだけでなく、ブランド独自の遺産と、その永続的な価値を支える真の革新を強化します。

シャネル N°5 は、エレガンス、洗練、そして革新の時代を超越した象徴としての地位を確立し続けています。その永続的な遺産は、ココ・シャネルの大胆なビジョンとエルネスト・ボーの嗅覚の卓越性への証として、細心の注意を払って文書化された真にユニークな構成の上に確固として築かれています。

一方で、コアジサイがシャネル N°5 の成分ではなかったという結論に至ったものの、本調査から、そのユニークな香りが現代の香水製造で認識され、活用されていることが明らかになりました⁽²¹⁾。これは、香水業界が多様な天然および合成の香料を探索し、取り入れるという、より広範で継続的なトレンドを浮き彫りにします。これには、20世紀初頭には抽出が困難であったり、確立された嗅覚のパレットの一部ではなかった香料も含まれます。ユーザーの質問は、シャネルに関する否定的な回答につながったものの、香水製造のダイナミックで絶えず進化する性質について議論する機会を提供します。それは、新しい原材料、高度な抽出技術、そして変化する美的嗜好が、香水における創造的な可能性を継続的に広げ、コアジサイのようなユニークな花の香りが現代の

組成物に取り入れられることを可能にしていることを示しています。

引用文献

1. NON！常識を破ったココ・シャネルの授業④：香水 | delta studio - デルタスタジオ, 6月 21, 2025にアクセス、<https://whatisyourdelta.com/2024/09/19/12680.html>
2. CHANEL N.5の秘密 | Ablxs JAPAN 自己解放する香り, 6月 21, 2025にアクセス、<https://ablxs-fragrance.com/post-1462/>
3. シャネルが服飾以外の香水“N°5”を生んだ秘話 - MOVIE WALKER PRESS, 6月 21, 2025にアクセス、<https://press.moviewalker.jp/news/article/11670/>
4. 伝説の香水『シャネル No.5』誕生秘話 | ココ・シャネルと愛の記憶」 - アメブロ, 6月 21, 2025にアクセス、<https://ameblo.jp/aromasalon-angelica/entry-12885563197.html>
5. シャネルNo.5 - Wikipedia, 6月 21, 2025にアクセス、<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%A3%E3%83%8D%E3%83%ABNo.5>
6. シャネル N°5にまつわる5つの逸話 伝説の名香がもっと好きになる！ | 写真 | 1枚目 - CREA, 6月 21, 2025にアクセス、<https://crea.bunshun.jp/articles/photo/30325?pn=1>
7. シャネルN°5 と帝政ロシアの香水産業 - 宇都宮大学 学術情報リポジトリ (UU-AIR) , 6月 21, 2025にアクセス、<https://uuair.repo.nii.ac.jp/record/3874/files/37-1-Perfume.pdf>
8. 祝100周年！CHANEL N°5 | 楠 尚子 | Perfumer - note, 6月 21, 2025にアクセス、<https://note.com/yourexclusive/n/n78d8c7b9567c>
9. 【試してみた】シャネル N°5 ロー オードゥ トワレット (ヴァポリザター) CHANEL のリアルな口コミ・レビュー | LIPS, 6月 21, 2025にアクセス、<https://lipscosme.com/products/44196>
10. 069: シャネルNO5を再現MoonLeaf (ムーンリーフ), 6月 21, 2025にアクセス、https://moon-leaf.com/contents_1444.html
11. 【透明感と洗練の象徴】No.5 L'EAUの香りって実際どう？印象・口コミ・女優の愛用情報まとめ！, 6月 21, 2025にアクセス、<https://kaori.air-marketing.co.jp/perfume/chanel-no5/>
12. シャネル N°5 ロー オードゥ トワレット (ヴァポリザター) - 100 ml - Chanel, 6月 21, 2025にアクセス、<https://www.chanel.com/jp/fragrance/p/105530/n5-leau-eau-de-toilette-spray/>
13. ココ・シャネルがつくり出した伝説の香水「N°5」と「N°19」の魅力 - リファスタ, 6月 21, 2025にアクセス、https://kinkaimasu.jp/brand/column/chanel_fragrance/
14. CHANEL N°5 シリーズ 全5種 | L - エル - | 香水と甘いもの - note, 6月 21, 2025にアクセス、https://note.com/l_edp/n/n51f9a41189ff
15. シャネル(CHANEL)の5番(No.5)について徹底解説！香水の香りやイメージも紹介 - ギャラリーレア, 6月 21, 2025にアクセス、<https://galleryrare.jp/blog/chanel-no5/>
16. シャネル 5 番のブレンドレシピ*王道アロマは人気NO.1 - イースターセブン, 6月 21, 2025にアクセス、<https://www.aroma-easter7.com/blog2/no1/>
17. シャネルの5番「女性の香りがする、女性のための香り」 - 暮らしと香り, 6月 21,

- 2025にアクセス、 <https://kurashitokaori.jp/n5-chanel-women-scent/>
18. シャネルの5番 (No.5) はどんな香り？ 口コミや評判を解説 - 中古・新品ブランド販売ギャラリーレア公式通販, 6月 21, 2025にアクセス、
<https://www.g-rare.com/column/chanel-perfume/>
 19. 木樨山にコアジサイを訪ねる - 2019年06月22日 [登山・山行記録]-ヤマレコ, 6月 21, 2025にアクセス、
<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-1902471.html>
 20. あじさいの香りって、どんなにおい？ - 日本消臭抗菌予防株式会社, 6月 21, 2025にアクセス、 <https://www.yobo.co.jp/blog/20220614.html>
 21. 【香りトレンド研究室】 vol.1 甘い？ 爽やか？ 和！？ 梅雨のトレンド、アジサイの香りを徹底分析！ | STAFF DIARY | 香水メーカー公式通販サイト FITS ONLINE STORE, 6月 21, 2025にアクセス、
<https://fitsonlinestore.com/staff-diary/2023/06/02/5342/>
 22. J-Scent(ジェイセント)/ J-Scent フレグランスコレクション 紫陽花の商品情報 - アットコスメ, 6月 21, 2025にアクセス、
<https://www.cosme.net/products/10129784/>
 23. Fresh Hydrangea - Standard Decorative Fragrance - 15 EA - Aromatique Wholesale, 6月 21, 2025にアクセス、
<https://wholesale.aromatique.com/products/fresh-hydrangea-decorative-fragrance>
 24. 北本自然観察公園日記 2010年5月 - 埼玉県自然学習センター, 6月 21, 2025にアクセス、 <https://www.saitama-shizen.info/today/P201005.html>
 25. JP2012116761A - Cosmetic containing plant-originated steam-distillation fraction - Google Patents, 6月 21, 2025にアクセス、
<https://patents.google.com/patent/JP2012116761A/en>
 26. MAKI UEDA | 自然から匂いを抽出して、香水をつくる - WILD MIND GO! GO!, 6月 21, 2025にアクセス、 <https://gogo.wildmind.jp/feed/howto/153>
 27. 木1本から採れるエッセンシャルオイルの量は？ - アロマディフューザー リュクス公式ストア, 6月 21, 2025にアクセス、 <https://luxce.net/blogs/useful/20230429>
 28. クロモジ苗木の下刈り開始です〜 | 吉野の杣人奮闘記, 6月 21, 2025にアクセス、
<https://ameblo.jp/yamashigoto/entry-12891678809.html>
 29. 幸良 - 岐阜県森林研究所, 6月 21, 2025にアクセス、
https://www.forest.rd.pref.gifu.lg.jp/pdf/kp38_full.pdf
 30. 業 幸民 - 岐阜県森林研究所, 6月 21, 2025にアクセス、
<https://www.forest.rd.pref.gifu.lg.jp/pdf/gyoumu18.pdf>
 31. コアジサイの黒葉 | 瀬戸 裕紀 - note, 6月 21, 2025にアクセス、
https://note.com/julikis_seto/n/n7512499d2cab
 32. Hydrangea Garden Fragrance Oil - A spring floral sensation! - Perfumedom, 6月 21, 2025にアクセス、
<https://perfumedom.com/product/hydrangea-garden-fragrance-oil/>
 33. 梅雨の紫陽花咲く情景を香りで表現 世界から注目される日本発「リベルタ パフューム」 - WWD, 6月 21, 2025にアクセス、
<https://www.wwdjapan.com/articles/1855775>
 34. リベルタパフュームの新たな香りが登場 紫陽花の花や雨の古寺をイメージ - ファッションスナップ, 6月 21, 2025にアクセス、

- <https://www.fashionsnap.com/article/2024-06-30/liberta-rainblossom/>
35. 【楽天市場】舞妓さんの花香水 選べる4種類 さくら たんぽぽ 夏みかん あじさい
香水 天然フレーバー 桜 サクラ 練り香水 やさしい香り : 京都よしとよ, 6月 21,
2025にアクセス、<https://item.rakuten.co.jp/yoshitoyo/10001045/>
 36. 第二話癒しの自然 - 小紫陽花の小道 - アジア航測, 6月 21, 2025にアクセス、
<https://www.ajiko.co.jp/yomimono/soramori02.html>
 37. フレグランス Official site | CHANEL シャネル, 6月 21, 2025にアクセス、
<https://www.chanel.com/jp/fragrance/>
 38. シャネル N°5 - 香水・フレグランス - Chanel, 6月 21, 2025にアクセス、
<https://www.chanel.com/jp/fragrance/women/c/7x1x1x30/n5/>
 39. 【全成分解析】CHANEL シャネル N°5良成分は何%?, 6月 21, 2025にアクセス、
<https://cosmekaiseki.com/facewash16/>
 40. 【試してみた】シャネル N°5 パルファム CHANELのリアルな口コミ・レビュー |
LIPS, 6月 21, 2025にアクセス、<https://lipscosme.com/products/44014>